

岩手教区報

新年明けましておめでとうございます。昨年中は、岩手教区の上に温かいご尽力をいただき、誠にありがとうございました。年が改まり、いよいよ教祖140年祭の年を迎えました。顧みますれば、立教185年秋季大祭において、眞柱様より諭達第4号が発布され、翌年の春季大祭より三年千日の年祭活動が始まりました。

岩手教区では、この年祭活動に何ができるのかを思案し練り合いを重ねた結果、それまでのコロナ禍でおぢばがえりが困難であつた教會長をはじめ、ようぼく、信者が共におぢばに帰り、喜び勇んでいたたくことが、教区内の全教會が心を一つにして年祭活動を進めることに繋がり、何よりも「ぢばの理」をいただくことが大切ではないか、との思いに至りました。このような経緯から1年目に「全教會おぢばがえり」を実施し、さらに仕上げの年の昨年は、中田善亮表統領の「一人でも多くの人におぢばへ」とのお話を受け、教区一丸となつて年祭活動を勇んで勤め切らせていただきたいとの思いから、「岩手教区おぢばがえり」を実施させて頂きました。

また、年祭活動の歩みを進める上から、「ようぼく一斎活動日」が全5回開催されました。これは、同じ土地

所に住まうようばくが互いに励まし合い、勇ませ合つて、それぞれの年祭活動の更なる実践に繋げていくことを趣旨とした集いでした。1回目の自主プログラムは教区主導で実施しましたが、2回目以降は各支部で趣向を凝らした独自の自主プログラムが行われ、回を重ねるごとに支部の教友同士の繋がりが強まり、喜びのうちに終了となりました。

昨年の秋季大祭において真柱様は、「つとめたらつとめただけのご守護は現れてくるのであります。また、いましつかり動いたことは、これから先の歩みのための種蒔きであります。無駄になることはないのであります」と話され、さらに「力いっぽいとめたという充実感と喜びをもつて年祭を迎えることができるようになんとめ下さるように願いたい」とお話し下さいました。

年祭までの活動期間は残り僅かですが、真柱様のお心に添わせて頂くべく、教区一手一つにつとめ切らせていたときたいと思います。そして、教祖年祭の年に相応しい教区活動をつとめて参りますので、教区管内の方々にはより一層のお力添えをいただきますよう、何卒よろしくお願ひ申し上げます。

(1) 岩手教区報 令和8年(2026年)1月1日



詩經

令和8年（2026年）1月1日 岩手教区報

おたすけの失敗談です。私は28歳で入信し、父の突然の出直しにより29歳で教會長を継ぐことになりました。布教やおたすけの経験が一切なかつたので、「3年間は単独布教師の精神でがむしゃらに動く」を中心めし、勇みに勇んで努めていました。

3年目に入った頃、ある30代のご婦人が心身症で悩んでいると聞いて、おたすけに運んでいました。心身に様々な症状が現れるため、6か所の病院の診察券を持ち、通院に明け暮れていました。おきづけの取り次ぎを心待ちにされていて、教会にも何度も参拝してくれましたが、症状に大きな変化をお見せ頂けずにいましたので、修養科を勧めてみました。しばらく固辞されましたが、「憩の家」という大きな病院があるので、しつかり診察・治療を受けながら修養できると話し、やつ

一 挫折

と納得して頂けました。

思えば、おぢばへ向かう前に、心配す

おたすけの失敗談です。私は28歳で入信し、父の突然の出直しにより29歳で教會長を継ぐことになりました。布教やおたすけの経験が一切なかつたので、「3年間は単独布教師の精神でがむしゃらに動く」を中心めし、勇みに勇んで努めていました。

3年目に入った頃、ある30代のご婦人が心身症で悩んでいると聞いて、おたすけに運んでいました。心身に様々な症状が現れるため、6か所の病院の診察券を持ち、通院に明け暮れていました。おきづけの取り次ぎを心待ちにされていて、教会にも何度も参拝してくれましたが、症状に大きな変化をお見せ頂けずにいましたので、修養科を勧めてみました。しばらく固辞されましたが、「憩の家」という大きな病院があるので、しつかり診察・治療を受けながら修養できると話し、やつ

週一で夜お墓地に出掛け墓前で十二下り、睡眠不足とひのきしんの疲れで、私もかなり参つていきました。

3か月目に入つて彼女から「タベ教祖が夢に現れて、真柱様への伝言を頼まれたから、真柱様宅へ連れて行つてくれ」と言われました。「我々は直接真柱様にお会い出来ないんですよ」と返事を濁し、延ばしておりましたが、一人で押しかけたら大変なことになると、ヒヤヒヤしておりました。

間もなく、大教会で大事な行事があり3日休んで帰つて来いとの報せがきたので、その旨を伝えると「私は3か月で学ぶところを2か月で習得したから、一緒に帰ります」と言う。悩んだ末、一人残して真柱様宅に行かれては大変だからと思い、結局残り3週間のところで辞退することになりました。

	31	26	17	16
"	日	日	日	日
婦人会例会	（10時）	教祖百四十年祭執行	役員会議・予算地方委員会	青年会例会（18時）
祭儀式勉強会	（10時）			

権 谷 一 一 さ ん 「88歳」
九戸支部・南平分教会前会長
令和7年12月18日出直された。

私はこの一件ですつかりおたすけへの自信を消失し、周囲へは気付かれないよう勇んだ姿は見せていましたが、内心は悶々としてしばらく落ち込みました。



少年会

第5回少年会報用教図

員で少年会員のちかいと少年会の歌を声高らかに斎唱した。昼食後は、お楽しみ行事としてゲームとビンゴで大いに盛り上がり、少年会員の笑顔が溢れる喜びの総会となつた。

今回の総会に際して、総会の目的をご理解下さり、多くの育成会員にもご参考集頂いたことを誌面をお借りして厚くお礼申し上げます。



学生担当委員会

祭事部

祭事部

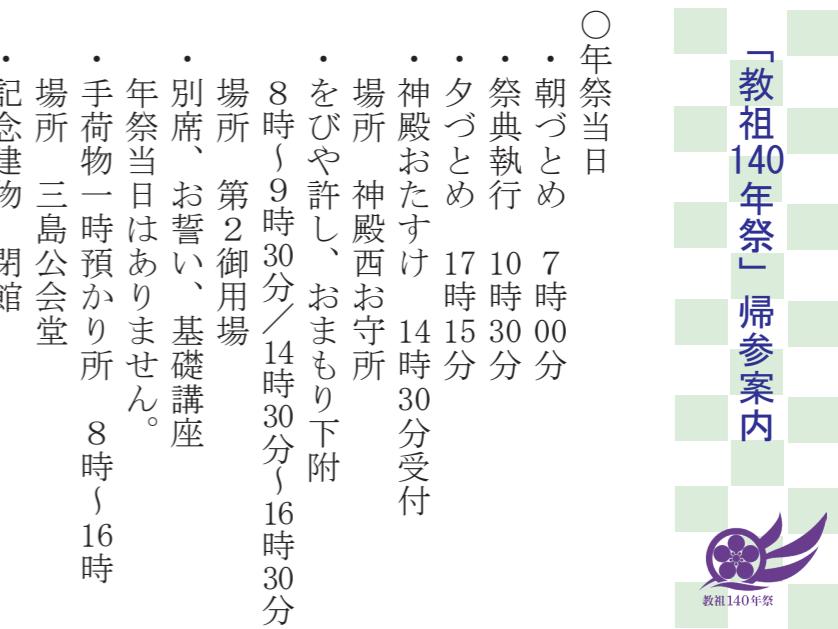


祭儀式はわかぎ（中学生）がつとめ
続いてのおつとめは座りづとめを教区役
員と教区団委員、よろづよ八首をわかぎ
一・二下り目を三陸支部、三・四下り目を
県南支部、五・六下り目を九戸支部と二戸
支部、七・八下り目を盛岡支部、九・十下
り目を花巻支部、そして十一・十二下り目
を奥州支部がそれぞれ一手一つに勇んで
勤めた。

その後の式典では、少年会長様の御告
辞、高橋邦和・教区団長の挨拶に続き、全

教区学生担当
委員会は11月30日（日）、教務支
庁を会場に「育成
に役立つプログ
ラム研修会」を開
催、担当委員ら8
人が参加した。
学生担当委員
会より坂本勇人
委員とスタッフ

申込み	内 容	日 時
持ち物	講 師	1月31日（土）10時
参加費	告別式、葬儀の準備、神饌物 の組み方、他。	
はつび、杓板	鈴木眞理・東山分教会長	
1月15日教区〆切	千円（昼食代含む）	



婦人會

「みちのだい育み塾」報告



教区婦人会は11月16日(日)、教務支庁に於いて「みちのだい育み塾」を開催、婦人会員44人が参加した。



午前10時に開会。はじめに参加者全員で座り、いざとめをつとめさせて頂き、続いで葛西あゆみ・青森教区婦人会主任（津軽大教會長夫人）が「教祖ならどうなさるだろう」とのテーマで講演された。葛西講師は教祖伝逸話編をもとに、教祖はどういうに思案をされたのか、ご自身の経験を通してわかりやすくお話し下った。質問タイムでは、参加者からの質疑に丁寧にお答え頂き、実りある貴重な時間となつた。

続いて、鈴木真喜・教区婦人会主任の挨拶があり、高橋泉・教区女子青年委員長が女子青年の活動紹介を行つた。昼食後はミニバザーが開かれ、和やかで楽しいひとときを過ごし、午後1時解散となつた。

